

開拓上海

群馬銀事務所開設

(第二種郵便物承認)

上海市中心街、地下鉄南京西路駅近くにある日本系百貨店「上海梅龍鎮伊勢丹」で、先月末から今月上旬にかけて、日本企業50社が一堂に集まった「ジャパンフェア」が開かれた。日本の商品に関心が高い富裕層の市民が列を作った会場に今月5日、市内で貿易会社「上海超頂貿易有限公司」を経営する高野英明さん(39)と太田市出身の姿があった。

年4回のフェア

高野さんは年4回あるフェアの企画、運営を担当する。同社が取り扱う食品、日用雑貨といった日本製品の中国への輸出拡大に向け、市民に商品の良さを知ってもらう機会を提供している。消費が低迷する国内から上海を足掛かりに新たに中国市場を求めめる企業の橋渡し役を担う。

1995年から上海で暮らし、以前はIT関連会社の上海代表だった高野さん。ビジネスに対する自らの意識の変化を「『上海の日

新たな販路を模索

評価高い日本製品



「ジャパンフェア」で試食用に調理する吉田さん(左)を見守る高野さん(左から3人目)

に付けるものは日本製「魔芋」。フェアに出展を好むようになった。した食品製造のアイエと、日本製品の評価の高さを実感。同年に超頂貿易を買収し、現在高野さんは休眠状態から3年前に活動を再開した「上海群馬県人会」の幹事も引き受けた。3日に再出発した群馬銀行上海駐在員事務所が99年に一度閉鎖される以前、県人会事務局になっていた経緯があることから、事務所復活は会の活性化につながるかと歓迎。所長「お役に立ちたい」と協力する意向だ。

高野さんは休眠状態から3年前に活動を再開した「上海群馬県人会」の幹事も引き受けた。味付けは森産業(桐生市)が製造した。超頂貿易を介し、両社は中国に新たな販路を模索している。

本人に売る』から『中国人に日本を売る』になった」と説明する。潮目が変わったと感じるのは、2008年に有害物質メラミン混入の粉ミルクが中国各地に出回った事件。安全安心を求める市民が「体に入れるもの、肌

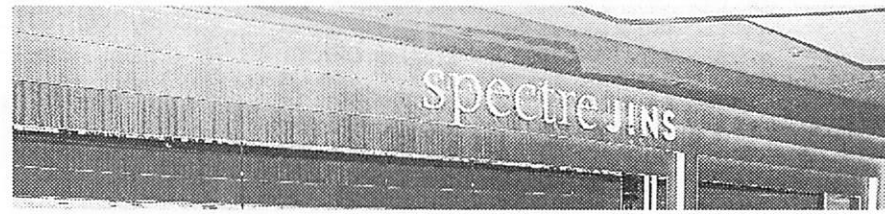
輸出

安全性アピール
「魔芋(モロユイ)、
・塚越毅が担当しました」

ジェイアイエヌ

新

眼鏡チェーン「NS」を展開するアイエヌ(前原町、田中仁社)



松島さん、
県勢4人が
千草
グ
全国の熟練技腕を競う第26回ランプリが、千草会場に開かれ本料理部門で、島寛和さん(牛をはじめ、本卓4人が入賞した